

旅立
つ
者
の
背
中
COMPLICATIONS OF THEIR WORKS

修士論文を語る p.2

2016 年度卒業研究を終えて p.10

東京大学

工学部都市工学科/

工学系研究科都市工学専攻

都市デザイン研究室

http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/

編集長: 黒本剛史 編集委員:中井雄太 王誠凱

神谷安里沙 田中雄大中村慎吾 松田季詩子



# 修士論文を語る

The Dialogue with Associate Prof. Naoto Nakajima and Assistant Prof. Shin Nakajima

今年度は、修士2年の7名が修士論文を執筆しました。指導する立場の中島直人准教授、中島伸助教のお二方に、現在住まいのある荻窪の、 伸先生行きつけの居酒屋「鳥もと」にて、修士研究についてお話を伺いました。

(聞き手: M2 浜田・M1 神谷・田中・中村・松田、編集: M1 田中)

# ▶「自分」と「社会」の間で

和やかに始まる。

中島伸(以下、伸):最近家を探しているの ですが、まじめに家探しをすると、初めて分

中島直人(以下、直人): 私も半年以上家を 探していて、もともと杉並区の景観審査の仕 事をしているので、ここ 10 年くらいの間の マンションは把握していたつもりだったけれ ど、不動産を本気で探してみた方がよほど杉 並区の住宅地としての特徴が分かってくる。 あれば、分かることがもっとたくさんあった

論理や知識を得て、もっとよい論文に仕上げ られたかも知れない。

地元荻窪での対談。荻窪での家探しの話から 伸:とはいえ修士生の持っている生活体験に 文はありますか。 限界があるなかでどうするかというところで

かることがいっぱいあって、とても勉強にな 高齢者の話とか子育ての話とか、なかなか難 しいよね。

> **伸**:神田プロジェクトはそういうところが課 題になっているかも。子供というテーマがな かなか難しい。自分の体験的リアリティと研 究との距離の測り方って結構大事ですね。

直人:体験というよりかは、リアリティだね。 切実さや現実さは大事ですよ。社会にとって 修論の話に絡めると、黒本君の論文はね、小 大事な問題はあるけど、それと自分の中のリ 田原で実際に不動産を探したことがある人で アリティの接点を探す。社会で誰かが大事と 言っている問題を解くだけではない。「あな かも知れない。黒本君もお店を開くつもりで たじゃなくてもできるよね」という研究は多 1ヶ月くらい回ってみれば、地場の不動産のい。とはいえ、独りよがりにならずに、社会

的問題といかに接点を持つかが大事。

- 今年度の修士論文の中で、印象に残った論

直人:すべては等価で、特にこれが良かっ た、ということはない。どれも印象に残る。 **直人**:比較的自分の体験に近いものになる。 それぞれが自分の問題意識のもとで頑張って いたことは高く評価するけれど、研究対象へ の集中が見事だった反面、やや学術的な視野 が狭かったようにも思う。研究室からは毎年 学会に修士論文を出しているけど、今年は投 稿する論文は比較的少ないかも知れない。去 年は高橋君の論文などは明らかに学術的な新 しさがあって、学会でインパクトがあると思 える論文だった(都市デザイン研マガジン vol.245 参照)。今年は苦労して自分たち自 身で論理を組み立てていったけれど、学術的 な鮮度、精度がどれほどあったかというと、 これはまた、なかなか難しい。

伸:学術世界に対するインパクトが弱いねと

言われた時に反発があってもいい。学術世界 へのインパクトが最も大事なわけじゃない し、これでいいんじゃないかというような主 張がもっとあっていい。今、中島さんが言っ たことに対してスルーされると都市デザイン 研としては寂しい。常に学術的な知の更新と、 現場の切実なリアリティに対する思いとのせ めぎあいをどう乗り越えたらいいのかという 話をしてこその研究室会議だと思う。

会的な問題はあるけど、既に分かっているこ とと分かっていないことがある。みんな社会 性はあるんだけど、知的な面白さがもっと あってもよいと感じた。分かっていること、 分からないこと、分からなさそうなことが 色々あって、その中で一番効果的な問いを設 定できるかどうかが難しい。勉強したら分か ることはやらなくていいし、勉強しても分か らないことがあるというのが面白い。それが 新しい知見になる。社会的な問題に対して研 究ですべて答えられるわけじゃないから、社 会的な問題に取り組めばいいというものでも ない。社会的意義があるけど、研究で解けな いものなのなら研究じゃないかたちでやれば いい。研究室会議ではそんなことを考えなが らいろんな誘導を試みるけれど、まあ東大生 は研究室会議で言われたことやらない。自分

**伸**:研究室会議での指摘の仕方は難しいね。 今の若い人たちがどういうことに問題を持っ

クリティカルに結論に直結する指摘をした ていて、何に関心があるかを感じ取ることが ら、真芯を捉えられるかもしれないけれど、 それを言ったら最後やらなくなるなというこ とはありますよね。

直人:卒論生なら言ったことをそのままやっ てくれることはあるんだけど、修士生で他人 に真芯を指摘されたらおしまいでしょ。僕た ちは、学生が持ってくるテーマの周辺につい **直人**:自由な発想で研究することは大事。社 いて、真芯には自分で気づいてほしいと思っ

### ▶都市デザイン研究室の論文指導

- テーマが自由な中で、指導することに難し さはありますか。

伸:難しくないですよね。

直人:むしろ楽しんでる。

伸:学生が自由なテーマを決めるのは、難し いけど、指導する側もきっとそれに対して難 しいんじゃないかと思われているんですよ ね。でも全然逆で、面白いですよ。

直人:むしろ、私の知らないこと、私の発想 の中にないものを持ってきてくれるのが楽し い。私のど真ん中のテーマを持って来られる 士課程の学生の存在感はちょっと変わってき と「私がやった方がいいんじゃないの」と思 うけど(笑)。それは多分、我々が大学にい て、学生に指導しながら研究をする意味で、

できる。だから、自由な中で出してくれる方 が、面白い。まあ、もちろん、私が個人でも やりたいと思う研究をやってくれる人がいる のは、それはそれでいいのだけど。

伸:それに関しては、仮に君らがやらなくて も、僕らがやらなきゃいけなくて、どのみち やるからいいんだけどね (笑)。

て語りながら絞っていくようなことをやって - 研究室会議はどのような姿勢で望んでいる のでしょうか。

> 直人:西村先生がおっしゃっていたよね。研 究室会議は勝負の場だと。研究室会議こそが 全てで、気合いを入れて発言していると。

伸:僕が学生だった頃から、研究室会議は、 ハレの場だったなあと思う。

直人:昔から、学生が気楽に発言する会議じゃ なかったことは確か。教員が発言するのはい いけど、学生が発言するには、すごく勇気が 必要だった。自分は、学生時代に M2 の先 **輩の研究に対して発言したこともありますけ** ど、相当緊張したよね。ただ博士課程の学生 は、もうちょっと発言をしていたような気も する。博士課程の学生は最近あんまり研究室 会議に来ない気がする。発表もしないし、博 ているかもしれない。

伸:博士課程の頃は、日々研究室会議の中で、 これだったら言えるんじゃないかということ を常に考えて、発言していたような気がする

# 今年度の修士論文7本紹介 - 概要と感想 -

# 川田 さくら 中山間地域における地域自治組織と集落の関係性に関する研究

―島根県雲南市海潮地区・波多地区に着目して―

# 概要

中山間地域を中心に導入が拡大している地域自治組織と、集落を中心とする既存 の社会構造との関係性(主に集落や個人で行われてきた活動と主体に着目)を、雲 南市の2地区(大字単数型、大字複数型)を抽出し、その中の2集落を対象に住民 へのヒアリングを行った。大字複数型の地域自治組織では、地域団体の横の連携の 促進や活動支援の役割が大きいのに対し、大字単数型では、地域に密着した生活サー ビスの供給主体となっているという事実が明らかになり、今後の地域自治組織のあ り方への示唆が得られた。

### 修士論文を終えて

M1 の夏以降、地域自治組織に着目してきたものの、分析の視点や手法といった 論文の骨組みから、人口減少やいわゆる限界集落にまつわる答えのない問いまで、 とにかく苦戦の連続だった。ただ院進の目的の1つであったフィールドワークをで きたことは満足している。雲南市と伊賀市では、貴重な勉強をさせていただき心か ら感謝していると同時に、いただいた期待に応えるため、また残った悔しさと課題 に対処するべく、4月から仕事をがんばっていきたい。



の様子。約30年に1度の機会に立ち会うことができました。

# 学術的な知の更新と、現場の切実なリアリティに対する思いとのせめぎあい

な。

うとしているから、アピールの場なんだよね。 研究室会議で、ちゃんと発言してくれたら、 我々も一目置くことになる。

考えていることを言える場は他にほとんどな かったと思ってしまっていた。アポをとって 研究の相談をすればいいんだけど、そうしよ うとすると、自分の素材を全部整えて持って いかないといけないから、そう簡単にできる ものではないと思って、どんどん敷居ばかり があがっていて。とすると、研究室会議で修 が大事だと思っていた。

直人:西村先生は、最初に発言するよね。あ れも結構面白い。慶應義塾大学で研究室を 持っていた時、私は最初に発言しなかった。 やっぱり、先に発言しちゃうと、学生が言う ことがなくなることがあるし、研究室の皆で の議論とするために先に学生に発言させてい た。西村先生はそうはしないね。西村先生本 人の責任感があって、最初にしっかり言わな いといけないというのがあるんだよね。

言わなきゃいけないんじゃないかと思う瞬間 もあります。

**直人**:博士課程に来ている人は研究者になる いと思う。やっぱり決定的なこといわれちゃ うと困るので。

伸:西村先生は、最初に議論の確認をとるじゃ ないですか。確認をとって、まずディスカッ 伸: あの当時、西村先生と北沢先生に自分の ションのフィールドを広げるよね。「だとし たら聞くけど」って2回目に聞いて、そこで 深いところへいくんだよね。はみ出ている可 能性を一回切りに行くんだよね。僕は博士課 程の頃から思っていたけど、研究室会議では そういう対話を通じて議論の組み手をいつも 勉強させてもらっている。

- 都市デザイン研究室では、教員が学生を対 士の後輩の発言に対して、コメントすること 等な立場で指導する伝統があると聞いたこと があるのですが。

> 伸:研究室会議は、学生が開きたくて、やっ ているもの。僕たちは、それに呼ばれている というスタンスです。

直人:歴史としては、東大紛争の時に、研究 室会議を否定したんだよね。東大紛争で指導 を受けるを学生側からやめた。だけど、その 後、学生側から、やっぱり開きましょう、と なったというのが歴史的な経緯のようです。 輪講というのもその時に生まれた。今は先生 伸:たまに、これは、西村先生より先んじて が輪講のテーマを提示したりすることも多い かれど、もともと学生の方から提示して単位 になるという話で。都市工にしかない特殊な **直人**:いろんなスタイルがあるよね。研究室 授業です。研究室会議もその流れで、今でも、

によってはいきなり先生が言わないことも多 学生側から日程調整をしている。いずれにせ よ、大学院生は少なくとも都市工の歴史を学 んだ方がいいですよ。今のあり方を相対的に 見るためにも、過去に同じような年代の若者 たちが何を考えて、研究・教育についてどの ような意見を言ってきたかというのは大事で すよ。西村先生たちはポスト大学紛争時代、 紛争後の大学の白けた雰囲気の中で、自分た ちで頑張って、自分たちで考えて新しい研究、 教育のありかたをつくってきた世代なんじゃ ないかな。

# ▶研究とプロジェクト

- 将来的に研究者になるつもりがない修士生 が研究することについて、どう思いますか。

直人:修士生がなぜ修士論文を書くのかを考 えることは大事。研究者は一つの類型で、私 は研究という世界の中で価値を見つけたいと 思って修士論文を書いてたけど。必ずしもそ ういうモチベーションではないときに、修士 課程に進んできて修士論文を書くというのが どういうことなのか、もっと自覚的になって

伸: 皆基本的には、修了後、実践していくた めに研究室にいて、ここで研究することの意 義を考えていたと思う。その意味で、学術的 意味づけが無いよねと言われた時に何を言う

のか、学術的価値ではないやりたい何かがあ るのか。そういうことを考えることが大事。

- 学生が研究よりもプロジェクトに力を入れ ている状況についてどう思っていますか。

直人:プロジェクトはプロジェクトで、研究 は研究で没頭してやってくれと言うしかな い。まあやっぱりプロジェクトでは、我々だ からできることを意識することは大事。いろ んな人がまちづくりに関わっているなかで、 我々は単にいるんな人の話聞いて調整するだ けでいいのか。研究室としての専門性を地域 で発揮するということをしなきゃいけない。 20年ぐらい前はそもそもまちづくりを支え る人がいなくてサポートさえしていれば良 かったけど、今は研究室がやるからには学術 的な知見とか手法とかをしっかり提供する必 要があるんじゃないかと思う。昔から議論と してあったことは、研究室とコンサルの違い はなんなのか。民業圧迫と昔から言われるこ とはあるけど、考えるところはあるよね。

伸: その時に、修士課程の人は、博士課程の 人との議論のなかに刺激があるのではないか な。博士課程ならプロジェクトの経験をどう やったら学術的な知の更新に出来るか、論文 にできるかということをすごく意識してい る。地域貢献を、教育プログラムを越えてど れだけできるかを考えないと大学が関わって いる意味はないし、博士課程の人は色々考え ているはず。

**直人**:地域も成長してくるからだんだんちゃ いということだったけど、たとえば彼女の修

3/5 に三国で開催された三國湊まちづくりフォーラムで (3月のウェブ記事「今年度の集大成!三國湊まちづくりフォーラム」参照 んとした学術的成果が求められてくる。学生 は入れ替わっていくけど、大学が入るからに は、我々には何ができて、我々しかできない ことがこれだ、ということをはっきりとしな いといけない。20年前から状況は変わって いる。修士に入ってくるみんなは初めてやる 機会だけど、いろんなことをやってきた結果 として今があるという、ある種の成長のプロ

いてはどう思っていますか。

ないといけないかな。

セスを意識して、我々はそういうふうに導か

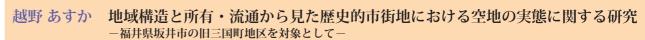
直人:越野さんはプロジェクト対象地で研究 をしていたね。空き地発生のメカニズムはな

士論文の中の、市場を通さない縁故による不 動産の流通は面白いと思っていて、そこに ぐっとフォーカスするともっと学術的な価値 がもっと出てきたかもしれない。

方々に修士研究を発表する M2 越里

**伸**:プロジェクトが進行していくなかで発見 できたものと研究との兼ね合いは難しい。

直人:プロジェクトは全体を見たらいいんだ けど、プロジェクトで発見したことはそれは それとして、論文では問題を絞ると楽しい。 修論は絞ったほうが絶対にいい成果が出る。 - 学生のプロジェクトと論文の兼ね合いにつ 拡げて曖昧なこと言うよりは、絞った範囲で 確実な、いや尖ったことを言うことが大事。 今の修士課程の学生は論文に集中する時期が やや遅くて、論を立てられそうと分かるのが M2 の夏とかでしょ。もしそれが、M1 の冬



# 概要

歴史的市街地における空地の実態を地域構造と所有・流通の面から明らかにし、 周辺住民の空地への反応を把握することで、歴史的市街地の持続可能性につなげる ための地域での空地のマネジメントへの示唆を得ることを目的とした。空地が面し ている通りの性格により空地の状態に傾向があること、歴史的市街地特有の土地の 回し方があり、今までは近所の中で土地がうまく利用されてきたが、近年回らなく なり始めていること、住民のまちの表と裏の意識が空地への問題意識にも表れてい ることなどが明らかになった。

### 修士論文を終えて

プロジェクトの場所を対象地としたことで、プロジェクトと研究の違いを実感し、 考えさせられました。それぞれの空地には個別の事情があり、一般化することの難 しさやすぐに返答やアクションできないもどかしさなどを感じました。こんなので 意味があるのかと不安になることもありましたが、たくさんのことを教えてもらっ た三国という場所を対象に、興味関心のあるテーマで論文にでき、地元で発表でき メイン通りである北前通り沿いの家が空き地になった例 ることを嬉しく思います。



#### 黒本 剛史 小田原市中心市街地における「体験創造型商店」の立地要因に関する研究

- 店主の地区選好と立地選択に影響する界隈性に着目して-

# 概要

中心市街地の活性化に向け、「体験創造型商店」を定義した。体験の選択肢を創造 によって拡大する活動的な商店のことで、新業種を扱う、イベントを活発に実施す る、セルフビルドの空間作りを推進するといった商店である。神奈川県小田原市で 体験創造型商店の立地要因を調査し、人通りや経済合理性を重視する通常の店舗と 異なる特徴を明らかにした。物件を重視する店主や周辺環境を重視する店主、人的 ネットワークを重視する店主等、物件選択理由が幅広く明らかになった。店主が回 答する物件選択理由に加え、界隈性からの説明を試みた。

### 修士論文を終えて

先生方、同期、先輩後輩方と議論した時間は、宝でした。視点が広がり、行き詰まっ た時には道筋が見え、詰め切れていない部分に気づけました。こういう機会を、もっ と早くからたくさん、図々しく作っていくべきでした。M2の冬は思ったより早く 訪れるので。最後に、小田原の店主さん、どの方も最高にカッコいいです。どれも 熱い想いの詰まったこだわりの店だし、オープンです。論文をガイドブック代わり に、ぜひ訪れてみてください。



通いたくなる場所が増えました。

に分かっていれば、あと1年かけて問題を いというものじゃない。人の話を聞くだけで た。研究者になることはもう意識していた 絞って深く調べられたのに、それができない。 ところで、「薔薇の名前」という小説を書い たウンベルト・エコという非常に有名な哲学 者がいて、「論文作法」という良い本がある。 ぜひ読んでほしい。論文作成の技法を書いて いて、論文とは何かが書いてある。犬小屋を 作る方法は論文にならないけど、犬小屋を作 る方法をいくつか比較すると論文になる。単 なるハウツーだけなら学術的価値はないんだ けど、国によってどう違うかをみると論文に なるとか。なかなか面白い本ですよ。

伸: 筑波大学時代に卒論を書く時に、これを 識が弱いような気がする。 言うと師匠が怒ると学生間で伝えられていた 逸話がある。ゼミで「いちおう出窓のアン ケートを取ります」とは決して言うなという ことだった(笑)。まず、研究とは「いちお う」ではない。「いちおう」でどうにかなる という考えは許さない。アンケートについて は、自分だってこれまでの人生で自分がまと もにアンケートに答えたことがあるか?それ だけで何かを分かろうとするという考えは許 さない。ちゃんと意味のあることをやってほ しいという先生の想いがある。出窓嫌いは先 生の趣味というかジョークなんだけど。この 逸話は研究の本質をつかまえていると思う。 それぞれの研究室にそれぞれの方法論はある よね、

論文は書けない。そもそもアンケートという のは人の話を聞くためにやるのではなくて、 自分なりに仮説を立てて、それを実証するた めに行う創造的な行為のはず。研究室の問題 としては、情報はたくさん集めるし対象に迫 るんだけど、なかなか仮説を打ち立てるため の理論とか方法論が弱いよね。色々分かりま した、で終わる論文が多い。それをどう乗り 越えるか。集めた情報をどう料理するかが弱 い、自省も込めて言うけれど。

**伸**: 僕は方法論よりも、最近ロジックへの意

直人:都市デザイン研究室はロジックで勝負 する研究室でもあるよね。決まった方法はな かった。例えば、統計的な数学的な手法とか とらないでしょ。だから何かを証明するのは 結構難しいよね。そこをどうするかというの と、ただ、新鮮な仮説や問いがあって、そこ に対しての新しい論理の立て方がないと。例 えば、空き家はなぜ発生するんですかと言わ れた時に、そこに新しい論理を立てられない 限り、学術論文にするのは難しいよね。

### ▶研究者への初めの一歩

- 修士論文を書いていた当時の思いや葛藤に ついて教えてください。

直人: 西村先生はアンケートについて今年何 **伸**: 葛藤! (笑) 僕は、中央区の八丁堀や湊 度も言っていたよね。アンケートを取ればい などのあたりの帝都復興についてやりまし

ね。なりたいなと。すごい狭いこと考えてい たよ。やれたかどうかは別にしてだけど、当 時は都市史というのをあまり理解できていな かった。僕は、都市計画の歴史は画期研究で、 都市のことなんてちゃんと見ていないのでは と思い込んでいた。ひとつの歴史的エポック の事業を出来て良かったねとか、良くなかっ たねという書かれ方だけでは全然面白くない と思っていた。事業の後に、それが本当に 100年経っても大丈夫というように、分厚 い時間の蓄積に耐えられているのかを研究し たいと思って、帝都復興後の事業街区が今ど うなっているのかをしつこく追った。今だか らこそ言える何かがあるという歴史があると 思ったから。そういうことをちゃんとやろう 思ってやった。あんまりみんなが考えていな いところを突けないかということを考えてい た。その意味では、都市デザイン研のみんな

とマインドセットは少し違っていた。論文を

書いて、学術世界の中で立てるために、何だっ

たら研究としてやれるのか、研究がされ尽く

されている東京という町が、自分の育った町

だから、そこでちゃんとやれるにはどうした

らいいかということを考えていた。研究論文

を通じて直接的に地元貢献するなんてそこま

で全然考えが及んでいなかったと思う。それ

よりも、自分が生まれ育った東京で、今まで

書かれていない東京を書けるのかどうかとい

う勝負に関心があったから、都市デザイン研

私は修士論文を書く時に、博士論文をよく 読んでいた。博士論文より良い修士論文を書 きたいと思った。あるいは、博士論文の方が 具体的な参考になったね。修士論文は玉石 混交というか、あまり熱量の無い論文もあ る。先ほど言った研究室のプロジェクトなど で、ある地域に対して貢献したい気持ちと、 自分の論文のバランスをどう取るかというこ とは、ちょうど我々の頃に始まった。鞆の浦 プロジェクトをやっていた時には、鞆の浦で 修士論文を書こうという気は全く起きなかっ た。我々はプロジェクト対象地で論文を書か ないことが実はプライドで、研究的関心では

なく、地域に向き合ってプロジェクトはちゃ

究もしっかりやることは大事。



#### 中井雄太 地方鉄道駅を拠点とする住民活動団体の生成と連携に関する研究 ―小湊鐵道沿線を対象として―

# 概要

思っていた。

地方鉄道は人口減少地域において地域課題の一つとして認識されることが多い が、本論文では交通インフラとしてだけではなく、それ自身が有するネットワーク 性や沿線の地域構造を利用することで新たな役割を担いうると考え調査研究を行っ た。千葉県市原市の小湊鐵道を研究対象として、住民活動団体に加えて鉄道会社と 行政にヒアリングと実態調査を行い、地方鉄道を契機とした住民らの自発的な取り 組みの発生と連携によるまちづくりへの展開の実態をまとめ、他の人口減少地域に おける地方鉄道の可能性について論じた。

### 修士論文を終えて

全国各地を旅していた高校・大学の頃より、地方鉄道とその沿線の衰退を眺めて きた経験から本研究を行うに至ったが、中立的な視点を保ちながら満遍なく調査を 行う事に少し苦労した。最終的に客観性において信用できるデータの提示が十分に 行えなかった点が悔やまれるが、1人で現地に入っていくという経験を積むことが できたうえ、調査に協力して頂いた方々、同行してくださった方々と楽しい時間を 過ごすこともでき大変有意義であった。



#### 都市空間における個人的滞留に関する研究 砂塚 大河

一都心三区の大規模民間開発により生み出された公共的空間に着目して一

# 概要

一人世帯の増加や住宅機能の外部化が進み、都市の中で個人で行動する機会が増 えているが、都市の公共空間はにぎわい創出の場として活用される一方で「ひとり」 を受け入れる場としては整備されていない。このような背景から、「都市空間にお いてひとりで滞留するということ」の実態を明らかにすることを目的として研究を 行った。民間開発敷地内で誰でも利用可能な机とイスのある場所を滞留空間と定義 し、ヒアリング調査から提供実態、図面・現地踏査から空間特性、行動観察調査か ら利用実態を把握し、滞留空間を介した提供者と利用者の関係性を明らかにした。

### 修士論文を終えて

遠回りをしながら、気付かないうちに、原点に戻ってきたような気がします。良 かれ悪しかれ、根っこの部分はなかなか変えられないのだな、と。

建築から都市へ、スケールを広げていったときに小さくなっていつのまにか見えな くなってしまう「ひとり」という存在を常に見つめて、都市を考え、つくっていき たい。修士論文を通してそう思うようになりました。根っこはすこしだけ成長して、 芽が出たくらいかと思います。



# 自分が本当に面白くて、読み返したいと思う論文を書く。

# 修士論文を書いた頃は、端的に自分が読みたいものを書きたいと思った。

けを考える。今になって思えば、大学なので、 研究的関心もあった方がいいかなと思うこと 方が美学だったような気がします。論文にし うことではないんじゃないのかと思って、鞆 の浦プロジェクトをやっていた。そんなこと でプロジェクトをやりつつ、図書室で博士論 議がられたことを覚えていますけど。

思うけど、たまたま本郷三丁目の駅で座って はそれは楽しそうに読んでいたんですよ。い までもですが、論文や原稿の最初の読者は自 分なんだよね。自分が本当に面白くて、読み

んとやって、地元にどれだけ貢献できるかだ思っていて、修士論文もそう。自分で書いたから。本当に読みたいものがないと確認した ものは本当に面白い。面白いと思うことが大 事。帰りの駅でもつい読みたいと思うし、い もあるけど、当時はそういうことを考えてい つでもどこでも読みたいと思う。今でも、ど たので、プロジェクトを論文化しないことの んなに小さな雑誌の寄稿でも何回も読むんで すよ。自分で面白いもの書いたなという話な たいと思うと、論文にしたいと思うことしか んですが (笑)。それが、研究者だけではな 関心を持たなくなるかもしれなくて、そういくて、三牧くんもやっていた。自分のやりた いことや知りたいことを反映していて、しか も周りに既往研究がなくて、本当に自分の論 文でしか言っていない、何回も読みたくなる、 文をかたっぱしから読んでいた。今静岡市にそういうものを書けるかどうかなんだよ。そ 勤めている今川くんに図書室で会って、不思うであれば、絶対に良い論文なんだよ。野原 さん (横浜国立大学准教授) はそれを愛情と 修士論文を書いていた頃の印象に残ってい言っていたけど。自分の論文に対する愛情が るささやかな光景があります。同期に三牧く あるかどうかと。今、皆さんが自分の修士論 ん (現柏の葉アーバンデザインセンター 副 文に対して、愛情を持っているか。自分で書 センター長)がいて、論文提出間際だったと いたものを行き帰りの電車で何回も読み返し て、面白いと思うのか。それは冒頭のリアリ いる彼を見かけたんだけど、さっきまで研究 ティの話にも繋がっていて、書いた本人が面 室で書いていた自分の修士論文の原稿をそれ 白いと思ったり、思い入れを持っていたりす るものは他人に伝わるけど、それがなければ、 だめだよね。そういう意味ではね、修士論文 を書いた頃は、端的に自分が読みたいものを

後に、じゃあ誰がやればいいんだ、自分がや ればいいんだと思った。社会に貢献しないと いけないというのは尊い気持ちだけど、自分 自身の好奇心も同じくらい尊い。それが他人 に伝わるんじゃないの。

# ▶研究者として、都市と関わる姿勢

- 修了する学生とこれから修士論文に取り組 む学生にメッセージをお願いします。

直人: 我々は都市計画ではなくまず都市を見 ることが大事なんですよ。都市計画を見てい ると都市計画制度が全てに見えてしまう。で も都市はもっと豊かですよ。我々が都市計画 をやる人として都市のことをどれだけ知って いるかは、我々の生活すべてに関わってくる 問題です。西村先生がよくおっしゃる地方都 市や様々な地域での生活に対する想像力はも のすごく大事だし、そもそもここ東京でも分 からないことが多いでしょ。その中でいろん な店に行ったり、いろんなことを経験した り、いろんな本を読んだりと、どれだけ努力 して都市のためにやっているかで決まる。そ 返したいと思う論文を書かないとだめだと 書きたいと思った。読みたいものがなかった れに自信を持っていると続けられるし、自信

中島直人先生の修士論文題目「20世紀前半における都市美を巡る一連の運動 - 都市計画に関する思考と都市での実形について - 」 中島伸先生の修士論文題目「更新履歴に着目した都市 - 建築空間の分析 - 帝都復興事業地区を事例として -」

#### 森下 暢彦 既成市街地における旧農業用水路空間の残存・利用実態に関する研究 ―川崎市菅地区を対象として―

# 概要

末端旧農業用水路、所謂「青地」を対象とし、市街化した地域における残存と利 用の要因・実態について法制度面・空間面から考察を行った。まず諸法制度のねじ れが長く末端水路への積極的な計画的位置づけがされにくい構造に繋がったことを 示した。次に対象地区のかつての水路網を復元し残存状況を調査した上で、地区の 構造や市街化と水路との関係を考察し、地区の骨格であった水路が市街化の中で隙 間に取り残されてきたことなどを示した。更に水路空間の利用実態を類型化し、地 形や市街化履歴により生じた微細な空間特性との関係を論じた。

# 修士論文を終えて

手ごたえが掴めず先の見えない苦しい状態に追い込まれましたが、それでもひた すらもがいた経験は濃密で、反省は山ほどあれど自分と向き合う貴重な機会でした。 論文を通して、地元で遊び育った人ならではの都市空間の認識の面白さとか、些細 な日常の生活空間と都市デザインの関係、そもそも地元とは何か、といったことを 考えたいと思っていましたが、なかなか答えが出るものでもないので、今後も悩み 市街地の隙間に生まれた水路空間 続けていきたいと思っています。



がなかったら都市計画はやれない。都市とど れほど親密になれたのか、そこに自信を持つ ことが、都市デザイン研究室のすべてじゃな いのかなあ。それが本当の意味での現場主義 であって、分析とか研究はまた別の方法があ るんだけど。3/18 に野原さんとアーバニズ ムについて話すんだけど、同じ問題なんです よ(3月のウェブ記事「アーバニストスクー ル・ミニシンポジウム@ BankART studio NYK」参照)。アーバンデザイナーやアーバ ンプランナーと違って、やっぱりアーバニス トなんですよ。

伸: 先日、「どういう人物がこれから大事か」 と聞かれたことがあって、「堂々と都市で楽 しく生きる人が大事だ。その人をみてみんな が都市で生きることを最高って思えればい い」と答えたことがある。専門性は後でいく らでもつけたらいいけど、大学時代を経て、 都市で暮らすのが最高だねってならないなん て、ありえないじゃないですか。その時にアー バニストとは何かというのを問われたように 思っている。本人が楽しく都市で生きること を肯定していて、工夫してよりよく生きよう としようとする。よりよく生きようとした時 に広がりがある。まちづくりを使命みたいな スタンスでやる人があまりにも多いけど、そ れは違うと思っていて、もっとあたりまえの 話なんだよ。普通に楽しく工夫して生きるこ とができる人がいるともっと良くなるはず。 そのうえで技術の話があるけど、一番の根本 論文に本格的に取り組む学年になります。あ



▲居酒屋「鳥もと」にて、美味しい焼き鳥をいただきました。

は、都市を楽しく生きるところまでできるよ まり研究に時間を取れませんでしたが、都市 うになることで、そのためにどういう手段が あるかということだと思う。僕はアーバニス トとは技術とか専門性じゃなくて態度だと 思っている。そこを共感できるようにしたい。 ここ(都市デザイン研)は、態度でもいくら でもできるからその先を目指しているけど、 もっと楽しいとか喜びがあるとかから始めな いとそういうことはできないと思ってる。

中島直人先生、中島伸先生、年度末のお忙 しい中、取材にご協力していただき、ありが とうございました。

いよいよ、修士課程も2年目に入り、修士

に向き合う中で、今まで以上に自分とも向き 合う1年間でした。取材の中の先生方の言葉 には、修士過程真っ只中の学生として考えさ せられることがたくさんありました。自分が 最初の読者になるということを忘れずに、研 究を進めたいと思います。

僕の地元でもある荻窪で、このようなかた ちで一緒にお酒を飲みながらお話できたこと はとても嬉しかったです。

#### 近代以降の市街化履歴に着目した城下町縁辺部の空間形態に関する研究 王 誠凱 - 長野県松本市中央四丁目・埋橋一丁目を対象地区として -

# 概要

城下町縁辺部では、土地利用の混在、城下町の基盤延伸、街区パターンの違いを はじめとする多様な文脈が存在しているものの、中心部と遠隔郊外の都市構造的な 見方からすれば、見落とすことになる。本研究では、城下町縁辺部の更新可能性課 題を検証するために、近世城下町縁辺部の形成メカニズムを具体的な事例によって 分析しつつ、どのような流れでどのような空間が形成されたのを市街化履歴に基づ いて解明する。加えて、城下町縁辺部の更新可能性を検討し、城下町縁辺部におけ る市街地整備について、空間実態を解明することで課題や施策を見出す。

### 修士論文を終えて

やりきれなかったことは多々ありますが、悔いはありません。松本という素晴ら しいまちに二年間を通して関わり、忘れられない経験になりました。研究で市街化 履歴を分析して、あらためて積み重ねた歴史はその地にしかなく、そして面白いと 感じました。最後に、2年前のマガジンで語った研究室生活への意気込み「いたず らに将来に望を属するなかれ、満身の力をこめて現在に働け」という夏目漱石の言 葉を思い出しながら、これからの自分を激励したいです。



もう片方が昔ながらの商店街だったところです。この対照的な空間を見 て、基盤とエリアマネジメントの重要性をいつも考えています。



# 2016年度卒業研究を終えて

After Finishing the Graduate Studies, Year 2016





2月13-14日に学部生の 卒業研究審査会が実施され、都市デザイン研究室 B4の但馬が論文、神蔵 篠原・清水・中戸・福本 が設計の発表を行いました。6人に研究を振り返っ てもらいます。

■卒業論文 ■卒業設計

# 多摩田園都市開発による 非駅前拠点計画の変遷と現状

但馬 慎也

かつて多摩田園都市の開発計画に存在した非駅前拠点の設置計画を扱った。過去の計画の比較と、計画によって設置された拠点の変遷と現状の調査を行い、将来の地域拠点設置に関しての知見を得た。

### 卒業論文への感想

なんとなくテーマを選定してしまった結果、扱う意義が見いだせずに9月くらいまで 迷走していました。論文で行くと決めてから調べる範囲が広くなったのは大変でした が、その分新たな発見も多く非常に楽しかったです。実際に書き始めてみると、構成 がなかなか定まらなかったり直前に結論を書き換えたりと論文を書くことの難しさを 痛感しました。もう少し論文を読んでおけばよかったと反省しています。



▲探し回っても見つからなかった計画書が都市工図書館から発掘された・

# OUT OF THE BOX

# - 働く場の再考 -

神蔵 由芽

新大久保を対象敷地に、昨今超高層化・画一化が著しいオフィス環境を脱却し、多様な働き方を選択できる環境を構築するため、旧工場のリノベーションと駅前広場と一体的な新築のオフィスを中心に設計・提案をしました。

# 卒業設計への感想

新大久保の街は正直馴染みもなくあまり好きな街ではなかったのですが、そういった 街をどのように変えたいのか考えられたのはいい経験になりました。また計画を行う 上でまず自身の計画管理を行なっていくことの重要さを感じられました。



▲作業場

▲ごちゃごちゃ

# 風土が交差する舞台

篠原 尚哉

# 慨 妛

陶芸のまち・栃木県益子市を舞台に、昔から移住者を迎え入れてきた風土を生かし、「風の人」=益子の新しい価値を発見し、益子に新たなネットワークを作る存在と、「土の人」=益子に根差して暮らし、益子の日常を紡いでいる存在の交わる拠点を、地形や既存の建物を生かして設計する。(編集者記)





# Parking to Parking

清水 浩晃

### 既要

福井県鯖江市を対象に、車依存による問題をその移動スタイルから Parking to Parking と名付け、車意識の市街地構造を道や公共施設群のデザインによって人意識のものに変えることで Park to Park の構造を作ろうと試みました。

### 卒業設計への感想

これまで「どうしようもない」「どうせ田舎が頑張ったって・・・」と悲観的に感じていた地方の都市問題について、半年間深く問題を掘り下げて考えてみると、「道はあるかもしれない」と前向きに感じられるようになった(気がしている)ので、これが一番大きなことだと思います。自分の勉強不足を痛感したので様々な事例を学んで取り入れていきたいと思います。



▲横並びの4つの公共施設

# 団地ノ庭園 (ダンチ / ニワソノ)

中戸 翔太郎

新宿区戸山にある築 40 年以上の都営住宅団地を、かつての大名庭園の面影と既存の住棟配置を活かしてリノベーションする。「地域固有の高齢化問題の解決」、そして「公園と団地建築が持つポテンシャルの発見と提案」を目指した。

#### 卒業設計への感想

発表後は安堵感から「65点くらい」と大口を叩いていたけれど、今にして思えばきっと10点くらいの出来でした。思っていたことの10分の1も伝えられなかったから。リノベ提案ならではの新しい伝え方があるはずだし、具現化する方法もあるはず。「考えてはいるけど…」という言い訳が言い訳のまま終わったことは本当に後悔していて、この反省は次に活かさねばなりません。



▲ 1:250 団地模型。足元の作り込みが全然足りませんね・

# EAST TOKYO を繋留する

- 連なる川床による神田川の再生 -

福本 遼ラ

### 概要

東京のイーストサイドにおいて神田川が中心であると位置づけ、秋葉原から浅草橋にかけての地域を対象に川沿いの空間に人の活動を紐付け、既存の建物や地域資源を利用した川沿いに連なる新たな風景の提案を行いました。

# 卒業設計への感想

浅草橋付近の舟宿の風景を直感的に面白いと思ったところから卒業設計を始めましたが、それらをどう位置づけてどう活かすのか解ききれなかったという反省があります。プロセスでも提案でも、もっと1つ1つの空間にこだわるべきでした。ただ、ぐるぐると悩む中で(勉強不足で)今まで知らなかった分野やテーマに多く触れられたことは今後につながると信じています。



▲色々な面で手伝って頂いた後輩・友達・先輩(…!)に頭があがりませ*F* 

# 

# 3月のウェブ記事

3/30 佐原 PJ さわらぼスイッチ準備中

**3/30 その他** アーバニストスクール・ミニシンポジウム@ BankART studio NYK **3/30 三国 PJ** 今年度の集大成!三國湊まちづくりフォーラム

# 4月の予定

**4/4** 新入生ガイダンス

4/16 神田 PJ 千代田まちづくりサポート最終報告会

4/20 プロジェクト報告会

# ★·編集後記

田中 雄

今日は3月31日です。研究室を去るM2の先輩の背中を見るのも、今日が最後なのかあと寂しく感じます。今日でとうとう"M1"が終わり、明日から、いや、数時間後から"M2"になるということですが、未だに信じられません。自分が研究室に配属された時の、M2の先輩方の背中はとても大きかったことを思い出します。頼もしい人間になれているのかはいささか不安ではありますが、最後の1年、悔いのないように、愛を持って、全力で研究室と関わりたいと思います。

10

